

事業名 ^{みおもてがわ}三面川中小河川改修事業

「サケと人とのかかわりを基に「世界で初めてサケの自然増殖事業を成功させた歴史をもつ種川」で直接、水中を観察できる護岸施設を整備し、地域づくりに貢献した新しい河川事業

受賞機関 新潟県村上土木事務所

事業実施期間 平成8年9月～平成10年9月

事業費 1,270百万円



観察護岸

技術等の特徴と評価

「サケから自然と文化を学ぶ川づくり」をテーマにサケの自然増殖事業に世界で初めて成功した「母なる三面川（一部を種川）」に観察護岸施設を整備することによって、秋にはサケの産卵等、冬季には孵化したサケの稚魚が見られ、地域の人々や観光客、地元小中学生等の学習の場として活用されていることが評価できる。

事業の概要と効果

村上市を流れる三面川は、「舟運の歴史を有する河川」で歴史・文化に配慮して河川整備が進められている全国9河川の一つとして選定された。この観察護岸は、新潟県と村上市との提携により建設された施設である。

観察護岸計画策定にあたっては、学識経験者及び地域住民、漁協関係者、行政による「三面川歴史・文化の水辺検討委員会」を設置し、三面川に生息している生物の良好な生育環境に配慮、美しい自然景観の創出、自然の神秘的な生命の営みをとおして、人々に感動を与え、自然環境のもつ意義を実感できる施設として、「川づくり」「人づくり」「地域づくり」の三本の柱による整備計画を策定した。

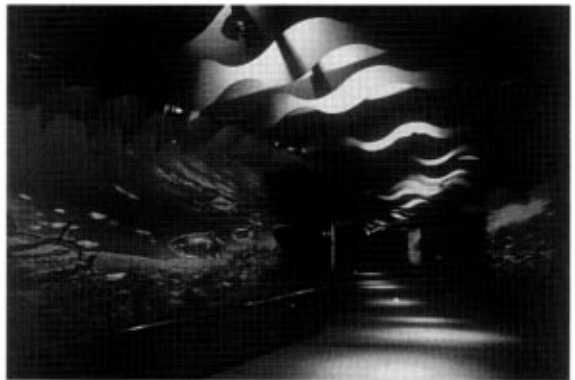
本施設は河川構造物であるとともに観察室としての地下構造物でもあり、河川水の堤内側への浸水対策に各種の工夫を行った。また、本施設は観光の拠点であり、この地方でサケを方言であらわす「イヨボヤ」会館や、鮭公園と一体的に整備されており、「母なる川」三面川の文化をうかがい知ることができる。

さらにこの観察護岸は高齢者・身障者も利用しやすいよう、緩やかなスロープと手摺りのついた地下通路で連絡し、トイレ、観察窓は車椅子でも利用できる広いスペースとバリアフリー構造となっている。

効果として、地下通路内の展示室では、大画面による



観察窓



地下通路

映像コーナーで、サケの自然孵化増殖「種川の制」に貢献した村上藩士の青砥武平次がアニメで紹介されている。

また、日本で初めての、人とともにサケが動くクリスマスグラフパネルの装飾が5面あり好評を得ている。

三面川は、地域の小中学校の生きた学習教材として古くから活用され、毎年春には観察護岸前面の種川で、地元の小学生によるサケの稚魚の放流式が盛大に行われている。観察護岸内部の壁を利用し、地元小学校の絵画、書道の展示も行われ、観察護岸の竣工と同時にマスコミにも大きく取り上げられ、サケ博物館「イヨボヤ会館」に訪れる人も、前年度の約50%増と多くなっている。